



# JA いしかり



2020

1月号

Vol.369



4-6P

## 令和2年 新春対談

石狩市

加藤 龍幸

市長



JA いしかり

中村 武史

代表理事組合長





# 新年明けましておめでとうございます



石狩市農業協同組合  
代表理事組合長 中村 武史

組合員の皆様におかれましては輝かしい新年を迎えられ心よりお慶び申し上げます。また、日頃より農協事業に特段のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年の当農協の農業を振り返りますと、降雪量は平年並みでしたが融雪が早く、春耕作業も順調に進みました。しかし、7月に入ると高温、干ばつ傾向となり、またその後には雨天が続くなど、作物の肥培管理には大変苦労した1年でありました。作況面では、秋小麦が10a反収が過去最高の8俵となる

など豊作となりましたが、春小麦は今ひとつの収量でありました。

また水稲は、石狩管内の作況指数が103となりましたが、実態としては100に届いたかどうかといったところであり、加えて低タンパク米の出荷率が近年になく低調でありました。しかしながら、11月に開催された石狩地区ゆめびりかコンテストにおいて2回連続で金賞を受賞できたことは、ひとえに生産者皆様の努力の賜であり、石狩産米の評価を高め今後への励みとなるものであります。



られております。緑豊かな農業農村を次世代へ確実に引き継いでいくためにも議論を深めてもらわなくてはなりません。

本年もJAグループ北海道が掲げる北海道550万人と共に創る力強い農業の実現と豊かな魅力ある農村の実現、併せて組合員皆様の営農経済の安定と発展のために取り組んでまいります。

近年は、台風や異常気象による大規模災害が国内の至る所で起きておりますが、本年こそ平穏で天候に恵まれ、実り多い一年となることを心から祈念申し上げ新年にあたってのご挨拶といたします。

# 令和2年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会  
代表理事会長 飛田 稔章

組合員並びにJA役職員の皆様には、輝かしい令和2年の新年を迎えられたものと心より、お慶び申し上げます。

皆様におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年の北海道農業は、春先に道内各地において強風に見舞われ、広範囲にわたり農業

被害が発生し、一部蒔き直しが必要になった地区も発生しました。

その後は干ばつ等もありましたが、天候は順調に推移したことで収穫も進みました。お米の作況指数が104の「やや良」、小麦、てん菜は平年作以上となる結果となり、生乳は良質な飼料作物確保による安定的な生産が見込まれ、作目によって違いはありますが概ね良い出来秋を迎えることができたと感じております。

しかしながら、全国的には8月末に発生した九州北部豪雨や、9月、10月と東日本を中心に大きな被害をもたらした台風15号、19号など、大規模な災害が発生した年となりました。

北海道においても一昨年、胆振東部地震により多くの支援を頂いた経過にあり、JAグループ北海道として全国連と協力し積極的に支援をして参りたいと考えております。

国際貿易交渉については、昨年2月1日に日EU・EPAが発効となり、日米貿易協定は昨年10月に署名がなされ、国会審議を経て12月4日に承認案が可決されました。

日米貿易協定の影響試算では、1,100億円の生産減少額のうち3、4割が北海道への影響とみられており、JAグループ北海道として北海道農業への影響を最小限に食い止める対策や、生産者の不安を払拭することを昨年より国等に対して要請を行っております。今後も動向を注視し、北海道農業が犠牲とならないよう毅然とした対応を求めてまいります。

さて、JAグループ北海道は、昨年11月12日に第29回JA北海道大会決議事項の実践事例や現状の課題を、JAグループ全体で共有すること、内外に実践状況を発信すること目的として、JA北海道大会実践フォーラムを開催したところであります。

引き続き、組合員・JA・連合会・中央会が一体となり、大会決議事項の実践に取り組み、基本目標の達成につなげてまいります。

結びになりますが、今年の干支は庚子（かのえね）です。子には、「ふるえる・しげる」の意味があり、種子の中に新しい生命がぎざし始める状態だといわれています。今年はこの庚子年にあやかり、農業にとって輝かしい未来が芽生えること、併せて北海道農業並びに組合員、役職員の皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。





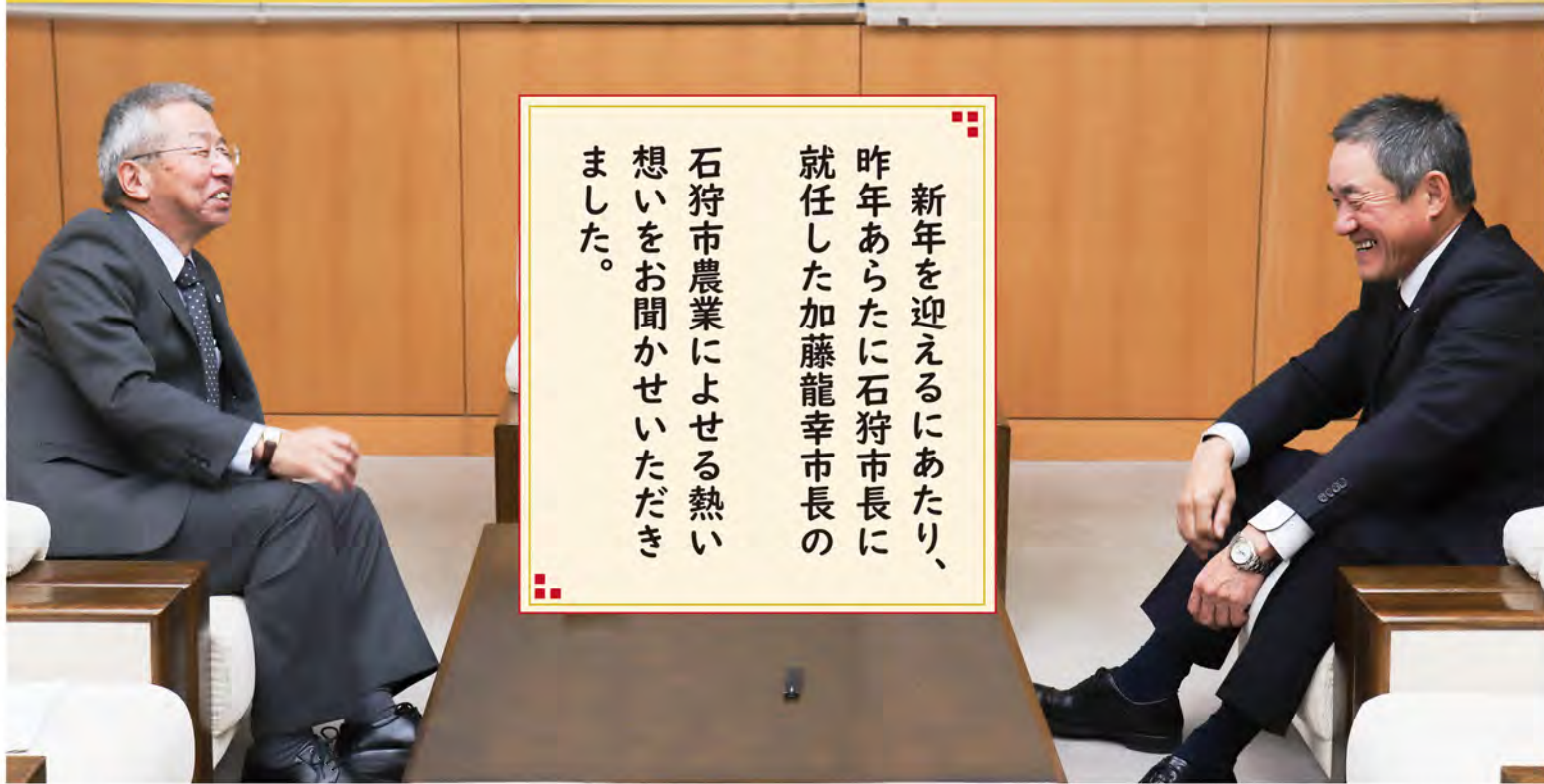
石狩市  
加藤 龍幸 市長

**加藤市長** なんとと言っても、道都札幌に隣接しているアドバンテージ（優

**中村組合長** 俯瞰的にみるとその通りだと思いますが、もう少し具体的に話していただけませんか。



令和2年  
新春 対談



新年を迎えるにあたり、  
昨年あらたに石狩市長に  
就任した加藤龍幸市長の  
石狩市農業によせる熱い  
想いをお聞かせいただき  
ました。

**加藤市長** 例えば、花畔地区では石狩湾新港進出によって多くの農地が買収され、小面積でも営農が続けられるように道外先進産地を視察して高収益の作物を模索した結果、隣接する花川団地の労働力を活用して日本一のキヌサヤエンドウ産地になった話は有名ですね。

**加藤市長** また、高岡地区では先人の悲願であった畑地かんがい事業により畑地に水源が確保されたことからミニトマト栽培が始まり、そこに異業種の皆さんが新規に就農され、その後飲食業を行う方も生まれ、さらには、歴史ある古い農家住宅を改築し古民家農泊がスタートするなど、高岡五の沢地区の定住人口はもとより、交流人口も少しづつ増えているのは、地域の皆さんの努力の賜物だと思います。

JAいしかり  
中村 武史 代表理事組合長

**中村組合長** 本日は公務ご多忙のところお時間を割いていただき誠にありがとうございます。今日は市長の石狩農業による思いをご披露いただきたいと思います。

**中村組合長** 本日にその通りで、良食味品種を開発している試験場の皆さんのお力ですが、おかげさまで石狩地区ゆめびりかコンテストで2回連続金賞に選ばれまして、石狩管内一の良食味産地としてのお墨付きをいただいたのかなと思っております。金賞米は「どれの



さと」で販売しています。が、「ななつぼし」など他の品種も決してひけは取りませんので、是非ご賞味いただきたいと思えます。

**加藤市長** それから最近よくブロッコリーの話を耳にしますが、一つ一つ手で収穫して発泡スチロールの箱に氷を詰めて出荷しているんですよね。昔から作っていましたか。

**中村組合長** 平成11年に生振で栽培が始まった比較的新しい作物で、全道的に作付が増えています。が昨年の作付面積は約1

20haで全道4位、平成30年にはじめて売上金額が4億円を突破し、令和元年はそれをさらに上回る見込みです。当JAで過去に単品で4億円を突破した青果物はこのブロッコリーが初めてです。道内外卸売市場からはまだまだ出荷の要請を強く求められています。年々収穫するパートさんを集めることなどの労働力不足が課題ですね。

**加藤市長** 労働力の確保は、どの産業・業種を問わず喫緊の課題となっており、特に都市近郊型農業を目指している当市の





**中村組長**

市長が仰られたその地区も、また市内のどの地区も高齢化が進み後継者が少ないため、担い手対策が喫緊の課題であります。そのため、平成31年4月から石狩市農業総合支援センターの業務内容を担い手対策に絞り、特に意欲のある就農希望者を道内外から積極的に受け入れて農業経営者に育てる取り組みを始めました。

**加藤市長**

最近、AIとかスマート農業といった言葉をよく耳にし、テレビドラマにもなっています。ロボットトラクターなどは大規模経営農家での活用は有効と考えますが、市内の営農形態は様々であります。

この技術開発の実現により、将来の担い手不足

の解消や重労働の負担軽減、更には生産性の向上など、あらゆる営農形態に効果が期待されます。

例えば、新規就農対策として高岡地区では施設園芸によるミニトマト栽培が活発に行われておりますが、施設園芸による営農一つとっても、スマート農業の活用を行うことで、センシングによる環境制御や栽培データ管理、自動運転など、農作業及び農業経営の大幅な効率化が図られると思います。

**中村組長**

石狩市におけるスマート農業の一つの形ですね。

**加藤市長**

例えば、ミニトマトは既にブランドになっていきますので、さらに高品質でできるだけ省

力化しながら栽培する。それを全国に販売する中で「地物市場とれのさと」を最大限活用しながら、物販はもちろん、異業種参入ならでのスイーツなどに加工して付加価値を付けるのですとか、レストランやカフェなどその場で食べていただくける環境をつくるのですとか所得向上に向けて方法はまだまだあると思います。そのためにお手伝いできることがあれば、石狩市として出来る限りのご支援をさせていただきます。と思います。

**中村組長**

新規就農される方が増えることは石狩市としても定住人口対策にもなり良いことですね。

**加藤市長**

日本中から農



業をするために石狩市を選んでいただき、ご家族でこの地に就農し、そこでお子さんが生まれ、育ち、働いていただければ市長としてもこんなに嬉しいことはありません。まさに、住宅・教育・医療・買い物・全ての環境が整い、付加価値の高い農業経営が実現可能な石狩市は、全道・全国にも誇れるまちだと胸を張って就農を後押ししたいと思います。

**中村組長**

加藤市長からこのような夢のあるお話を聞かせていただき、新年早々、組合員も大変勇気づけられることと思います。

**加藤市長**

いえいえ、私はまだまだです。常に現場主義で仕事をしたいと

考えていますし、これからも農業の奥深さをもっともつと勉強させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

**中村組長**

わかりました。では、事あるごとに連絡してどんどん現場に来ていただきますよ。

**加藤市長** ありがとうございます。お願いします。

**中村組長**

本日はお忙しい中、貴重なお話を聞かせていただき本当にありがとうございます。どうぞお身体に気をつけてらまして今年一年またよろしくお願いたします。







1月31日～2月1日 後志・石狩地区女性部研修会



2月19日 指導農業士・農業士認定



3月2日 ブロッコリー部会4億円達成祝賀会



4月10日 第31回通常総会



5月9日 アスパラ共撰開始



6月6日 青年部サツマイモ苗定植



6月26日 直売所出荷者協議会視察研修



7月16日 長いも部会視察研修



8月2日 幼P連バスツアー



9月15日 米穀施設受入開始



9月21～22日 石狩さけまつり2019



10月7日 年金友の会パークゴルフ大会



10月23～24日 資産運用部会視察研修



10月25～11月4日 漬物野菜即売会



# ゆめぴりか石狩地区コンテスト 2連覇

11月10・11日の2日間、北海道のブランド米「ゆめぴりか」の食味を競う第4回石狩地区ゆめぴりかコンテストが北広島市（くるるの杜）と札幌市（パークホテル）で開かれ、約500名の一般消費者などの投票により当JAが見事金賞に輝きました。金賞受賞は平成29年に続き2回連続の受賞です。（平成30年は不作のためコンテスト未実施）



に高位平準化を目指しています。ゆめぴりか生産者協議会の森本勝美会長（北生振地区）は「7月中旬は低温で発育に不安があったが、金賞の評価を受けてホッとした。圃場作りから精魂込めて作ってきた甲斐がある。」と力強く述べました。更に11月27日の全道ゆめぴりかコンテストへ地区代表として駒を進めました。が、残念ながら受賞とはなりませんでしたが、金賞受賞の「ゆめぴりか」は地物市場とれのさとの販売していただきますので、ぜひご賞味ください。

# 青年部 さつまいも収穫・対面販売会



10月10日、青年部がさつまいもの収穫作業を行いました。今年は鳴門金時と紅はるかの2種を1aずつ定植し、干ばつや天候不順などによる生育の遅れが心配されていましたが、なんとか収穫することができ、部員の顔にも喜びがあらわれていました。

また、11月17日には、地物市場とれのさとの対面販売会を行い、キュアリングで甘みを増した石狩産のさつまいもを多くの方にPRすることができました。部員たちは「今後も地域ブランド確立のために頑張ります」と意気込んでいました。





# JA北海道女性リーダー研修会・北海道家の光大会



11月7日～8日、シャトルレザガトーキングダムサッポロで令和元年度JA北海道女性リーダー研修会・北海道家の光大会が開催され、当JA女性部員9名を含む550名が全道から集結して親睦を深めました。

JA北海道女性協議会青山伸子会長の挨拶で開会し、初日は各地区代表による家の光活用体験発表や日本協同組合連携機構の文珠正也さんの講演が行われました。

懇親会では、各地区の代表単組がカラオケやアトラクションを披露して大変盛り上がりました。

2日目は家の光の朗読や手作り工夫展が開催され、当JA女性部からは小池千里さんの「猫ちぐら」が出展され、大変注目を浴びていました。最後にフレミズの音頭で女性の歌を合唱し全日程を終了しました。



# 毎年恒例イベント 長いも・ごぼう即売会!

約一ヶ月前から多くのお客様から問い合わせをいただき、今年は11月16～17日に開催しました。

待ちかねていた多くのお客様の列が初日から並び開店と同時に店内は満杯!ご自宅用、道内や道外に送られる方、たくさんのお客様で賑わいました。

「年明けにも食べられように、1本1本大事に新聞紙で包むんだ」「今年も内地に送られて良かった」など多くのお客様からお声をいただき、大変賑わいのあるイベントとなりました。



# 石狩産野菜と加工品をPR

11月22日～24日、にぎわい市場さつぽろ2019がアクセスサッポロで開催されました。

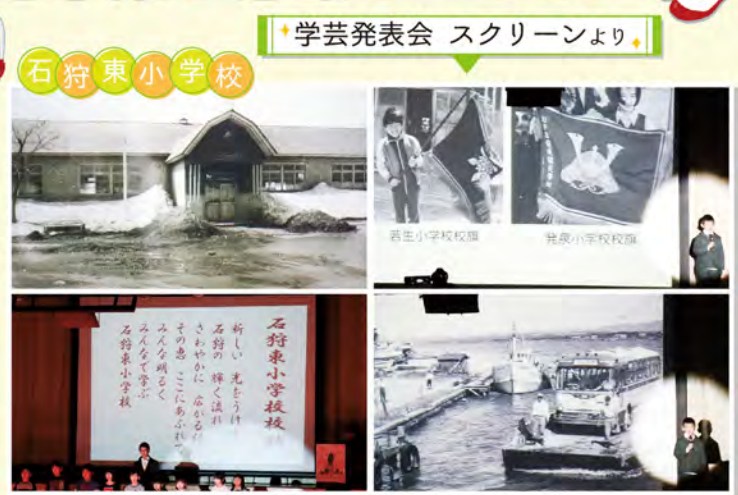
これは、昨年までの北のアメ横が進化したイベントで、当JAは野菜販売(ごぼう、長いも、人参、南瓜、長ネギ、ブロッコリー、キヤベツ、サツマイモ)、野菜詰め放題(人参、馬鈴薯、玉葱)、漬物試食販売を行いました。

詰め放題が非常に人気で3日間で延べ1000人以上のお客様が殺到し、順番待ちのお客様が並びどのブースよりもにぎわっていました。「新鮮野菜が安くて、つい買いすぎちゃう!」「初日に漬物を購入したらおいしくてまた来たよ!」などの嬉しい声が聞かれ、石狩の美味しい野菜と加工品をPRすることができました。3日間の総売上額は1,094,200円でした。





# 八幡小学校閉校に向けた記念事業は感動でいっぱい



11月17日、石狩市立八幡小学校で閉校記念事業が行われました。八幡小学校は平成元年に当時の3校が統合して生まれた学校ですが、児童数の減少などにより令和2年4月からは本町地区の石狩小学校と統合して石狩八幡小学校として新たにスタートします。

式典に先立ち、保護者や地域の方が見守る中で八幡小学校として最後となる学芸発表会が幕を開けました。今年は閉校を迎えるにあたり、例年がない全校劇という特別プログラムで全校児童40名で一つの劇を作り上げていました。八幡小学校の歴史をもとにして練り上げられた脚本も素晴らしく、統合から31年という年月の中で、八幡小学校で育った子ども達が大人になり、家庭を持ち、そしてその子ども達が同じ校舎に通ってくるというテーマで時にはコミカルに、時にはしっとりと、発表会の域を越えた壮大なストーリーを見事に演じきっていました。

八幡小学校の歴史のみならず、統合前の各小学校の成り立ちや校歌斉唱もあり、地域にエールを送るという意味が随所に込められていました。終盤には、卒業生が在校時に将来を思い描いて書いた作文や親と同じように八幡小学校に現在通学しているという作文の朗読もあり、見ている人がどんどん物語に引き込まれ、観客席では昔を懐かしむ姿や当時の自分と重ね合わせて目頭を押さえる姿もありとても感動的な内容でした。10代や20代の卒業生も多く駆け付けておりDVD化を望む声も聞こえてきそうな程で多くの人に見てほしいと感じる発表会でした。



その後行われた閉校記念式典は、厳かな雰囲気の中で粛々と進行し、歴代校長とPTA会長に感謝状が、児童へは記念品が贈られました。最後は校歌を斉唱し、あと何度聞くことができるだろうかと思いを馳せながら、閉校を惜しみつつも新しい統合校へ向けた期待を出席者全員で共有していました。



### 観客席でインタビュー

自分が6年生の時に統合前の歴史を調べて発表会で演じた事を思い出し、全ての校歌と一緒に歌えました。今回は更にバージョンアップされていたけれどスゴク懐かしいです☆  
～卒業生のY.Kさん(20代)～

自分や子ども達の歴史が重なって感慨深いものがありました。当時の映像を、わかる！わかる！と見て、昔の仲間と語る会を開きたいと思いました。  
～親子で八幡小学校に通ったY.Iさん(30代)～



11月19日、石狩市総合保健福祉センターで石狩市産業経済功労章授賞式が行われ、当JA関係からは花畔地区の杉中敏男さんが受賞されました。

杉中敏男さんは、当JAの理事として18年間、石狩花畔土地改良区監事として平成15年から現在までご尽力をいただき、地域農業の発展と振興に寄与され、永年にわたる功労が認められて今回の受賞となりました。



## 理事会だより



### 第10回 定例理事会 ～令和元年11月21日～

#### ■ 報告事項 ■

- 1) 管理金融委員会報告について
- 2) 農産物出荷状況等について
- 3) 余裕金運用状況報告（四半期）について
- 4) 組合員加入・脱退状況（四半期）について
- 5) 第3四半期定期監査の実施について
- 6) 既存事業用借地の固定資産取得について
- 7) 事業進捗状況・決算見込みについて
- 8) 年末手当の支給について
- 9) 今後の行事日程等について
- 10) 地区別懇談会について

#### ■ 審議事項 ■

- 1) 転貸資金（制度資金）の借入について
- 2) 貸付金の申込み査定について
- 3) 担保評価マニュアルに係る農地評価基準の変更について
- 4) 信用力評価基準に係る対応方針の設定について
- 5) 屋外自立看板に係る今後の対応について
- 6) 外部出資金の増口について
- 7) 購買業務規程の一部改正について
- 8) 除雪業者の選定について



今年もよろしくお願いたします

おくやみ

花畔地区 樽川2班 安田 鉄雄 さん 享年82歳  
令和元年11月21日逝去

謹んでお悔やみ申し上げます。





2019

年間人気旬野菜紹介

夏期営業限定(4月~11月末)

昨年、地物市場とれのさとで販売された野菜の中で2019年の人気商品を発表!



アスパラ

北海道の春の到来を感じる野菜と言えばグリーンアスパラ。

4月中旬頃から5月にかけて入荷され、味が濃く、甘くてジューシーなアスパラを求めるお客様で開店前から長蛇の列!!

(アスパラギフトも大人気)

これを目当てに訪れるお客様も多いスイートコーン。旬の時期には数種類が並び、イエロー、ホワイト、バイカラーといった色にも注目! 昨年は王道のイエローコーンが人気だった!? 今年はいかに!



スイートコーン

石狩野菜の代表格の1つ! 石狩産ブランド「いしかり DE CHU」をはじめとして、数十種類もあるミニトマト。それぞれに甘みや酸味、食感などの特徴が違い、とれのさとでは自分好みの品種選びができる品揃えも人気!



ミニトマト



長いも

冬の気配を感じたら、やっぱりコレ! 例年上位に入る石狩産長いもは、生で良し、熱を加えても良し。大切な方への贈り物としても多くのお客様に選ばれました。